

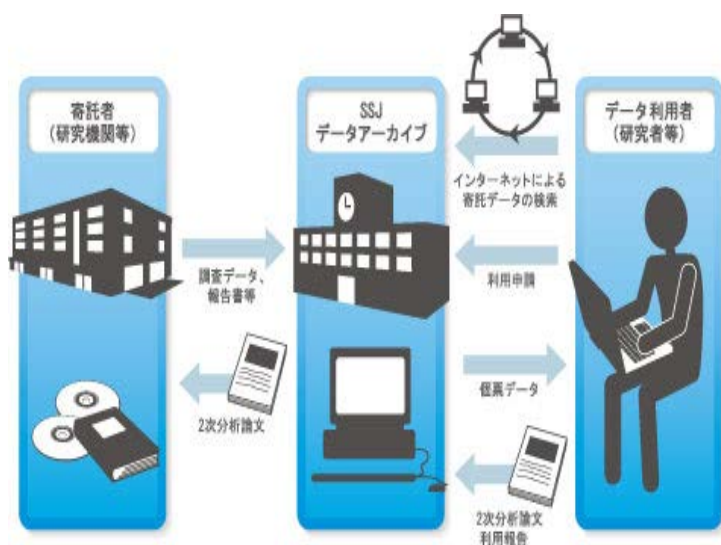
2. 東京大学社会科学研究所

社会調査・データアーカイブ研究センターによる SSJ データアーカイブの運営

東京大学社会科学研究所の社会調査・データアーカイブ研究センターの中核をなす活動は、SSJ(Social Science Japan)データアーカイブの共同利用とアーカイブデータを用いた共同研究の推進である。

データアーカイブは、統計調査、社会調査の個票データ（個々の調査票の記入内容。マイクロデータ）を収集・保管し、その散逸を防ぐとともに、学術目的での二次的な利用のために提供する機関である。データアーカイブは、欧米諸国のほとんどで設立されており、社会科学の実証研究、教育に活用されているが、我が国にはこれまで組織的なデータアーカイブがなかったため、多くの調査が実施されているにもかかわらず、それらの個票データは、当初の集計が終わるとともに徐々に消えていくのが現状であった。

社会調査・データアーカイブ研究センターは、我が国における社会科学の実証研究を支援することを目的として、SSJ データアーカイブ（Social Science Japan Data Archive）を構築、個票データの提供を 1998 年 4 月から行っている。



民間調査機関や政府機関、研究者などがセンターに社会調査の個票データを寄託しており、2014年3月現在、累積公開データセット数は日本最大の1586に達している。寄託されたデータに一定の加工処理を行った上で、2013年度には94データセットを新規に公開し、2129名の研究者に2754のデータセットを提供した。センターが把握している範囲では、データアーカイブのデータセットを用いた論文・著書は2013年度には154件刊行され、うち学位論文数は80件となっている。